■ 河合塾テキスト「高３ 共通テスト対策地理〈2026年 １学期〉」演習問題 解説 ■

【第11講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	③	③：正答。合計特殊出生率は１人の女性が生涯に産む子どもの数を示す数値，乳児死亡率は生後１年未満での死亡率で，ともに経済水準の低い発展途上国で高く，経済水準の高い先進国で低い傾向にある。両指標ともに最も高い**サ**がアフリカの後発発展途上国のジンバブエ，中程度の**シ**が新興国のメキシコ，最も低い**ス**がフランスと判断できる。また，両指標ともに，とくに発展途上国では経済水準の上昇とともに低下してゆく傾向にあるため，**b** が 1995 年，**a** が 2015 年と判断できる。なお，フランス（**ス**）では，女性の社会進出を前提とした子育て支援策がとられたこともあり，合計特殊出生率が回復し 1995 年（**b**）に比べて 2015 年（**a**）のほうが高くなっている。	★★
2	①	脚注にあるとおり，従属人口指数は，生産年齢人口に対する年少人口と老年人口の合計の割合を示す。①：日本。1960 年代前後の高度経済成長期に少子化が進展し年少人口割合が低下したため，従属人口指数も低下した。一方で 2000 年代以降は急速に高齢化が進展し老年人口割合が上昇したため，従属人口指数も急速に上昇した。②：フランス。20 世紀の終わり頃から高齢化が進展し老年人口割合が上昇しているが，緩やかに進んでいるため，従属人口指数も緩やかに上昇している。③：中国。1979 年以降，一人っ子政策を実施し年少人口割合が低下したため，従属人口指数も低下した。一方で 2010 年代以降は急速に高齢化が進展し老年人口割合が上昇すると予測されるため，従属人口指数も急速に上昇してゆく。④：エチオピア。後発発展途上国で年少人口割合が多いため，従属人口指数も高かったが，2000 年代以降は経済発展によって年少人口割合が低下してきたため，従属人口指数も低下してきている。	★★★
3	①	①：正答。アイルランド：**マ**。かつては隣国のアイルランドからの労働力の流入が多かったが，近年はアイルランドの経済成長により流入は減少している。インド：**ミ**。インドはかつてのイギリスの植民地であるため，労働力の流入が多い。ポーランド：**ム**。ポーランドは 2004 年にヒトの移動の自由化が図られている EU（ヨーロッパ連合）に加盟し，イギリスへの労働力移動が容易となったため，これ以降イギリスへの流入が増えた。	★★★